

(2) 人と自然との共生を支える緑の創出のための課題

○ 山の緑の育成

大山・日向の森林は、管理不足等から生じる荒廃などの問題を抱えています。そこで、林業の振興とともに、森林を観光や体験の場として活用し、市民との新たな関わりの構築による森づくりが求められます。

このことから、登山道や遊歩道、キャンプ場、日向ふれあい学習センターなど、既存観光施設等の周辺の森林は、観光地としての魅力づくりと森林体験の場づくりの観点から、市民参加による森林育成を行い、四季の移り変わりを感じ、また豊かな動植物が観察できる自然豊かな森づくりが課題となります。



十分に管理が行われていない荒廃した森林
(資料：林業白書)



適切な管理が行われている自然豊かな森林
(資料：林業白書)

○ 里山の生態系の保全と多様性のある水辺の創出

樹林地や農地からなる里山環境では、人々の生活と調和した自然環境が広がり、動植物にとっても良好な生態系が維持されてきました。

しかしながら、近年の生活様式等の変化から里山環境は様相が変わり、その保全・育成は人が自然と共生するうえで重要な課題となっています。

特に河川・水路においては、無機質なコンクリート護岸整備が水辺の生物の生息、生育環境を阻害していることから、今後、治水との両立を図りながら、多自然護岸整備等による水辺の改善を進めることが課題となります。



里山環境（日向）



多自然護岸整備（日向）

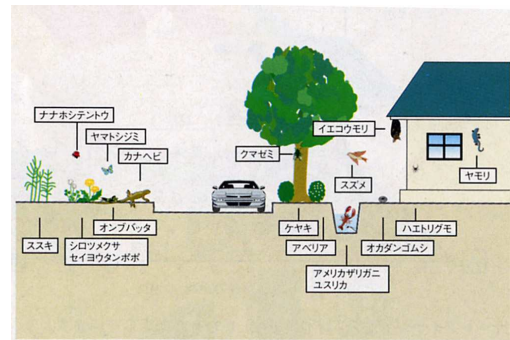
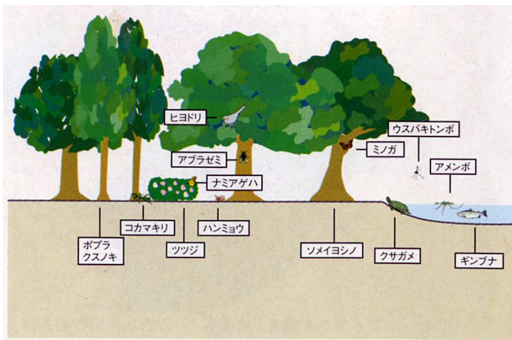
○ 市街地における樹林地や水辺の保全と生態系の回廊形成

小学生の市民アンケートから、市街地における水路や樹林地が小魚、ザリガニ、カブトムシなどの多様な生物の生息地となっていることが確認できます。しかしながら、これらの樹林地や水辺などは、周辺の宅地化とともに孤立し、個々単独で現在の環境を維持していくには、限界があると考えられます。



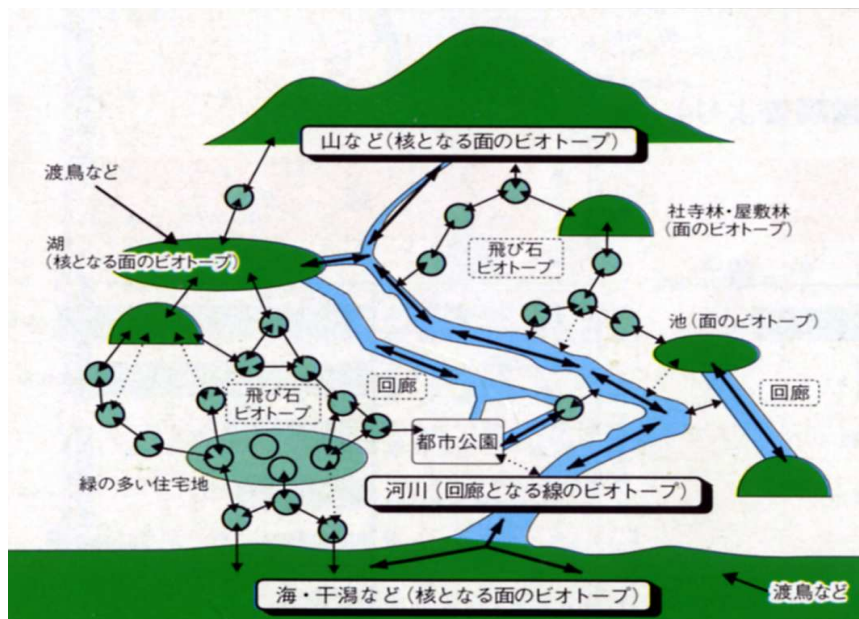
身近な水路でザリガニを捕る子供

このことから、市街地やその周辺の生物の生育環境にある市街地の樹林地や水路を保全するとともに、それぞれの間を生物が移動できるなど、一体的に機能するように生態系回廊（エコロジカルネットワーク）を創出することが課題となります。



河川・水路や道路の生態系

(資料：緑の基本計画ハンドブック)



生態系回廊（エコロジカルネットワーク）の概念図

(資料：緑の基本計画ハンドブック)